

沖縄県立宮古特別支援学校 (校長 喜久山 強)

○ 特別支援教育における平和教育とは

**どの子にも等しく学ぶ権利を保障する という点に関しては、
特別支援教育と平和教育の目的は一致する**

(平成 27 年 7 月 14 日：現地取材ほか)

【実践事例紹介】 ○川上真貴子 教諭

○喜久山強 校長

(聞き手：沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)

1. 作品応募を通して担任、児童、保護者の絆



ここでは、当館主催「児童・生徒の平和メッセージ」図画部門に応募した同校で小学校6年生、奥平菜稚（おくひらなち）さんの作品の紹介と、作品制作に関わった担任の川上真貴子先生と菜稚さんのお母さんとの思いについて紹介します。

第 25 回児童・生徒の平和メッセージ
図画部門 特別支援学校の部 入選（佳作）
作品名 「ここにしかない蝶（ひと）」

奥平 菜稚（おくひら なち）

サイトメガロウイルス感染症 運動機能障害 呼吸機能障害

重度障害のため日常生活に大きな支障があり、自宅で授業を受ける訪問学級に在籍。

肺出血や夜間の喘息、けいれん発作等があり訪問による授業もなかなか実施できていなかったが、今回の平和メッセージ作品募集を母親が見つけ「菜稚だから発信できることがあるかもしれない」と取り組みを決意。

作品の制作中も筋緊張やけいれん発作が続き困難を要したが、自分にできる動きを活かしての制作となった。

ビー玉と絵の具を使った背景は緑豊かな草原を表現、「菜稚」という名前から若草をイメージした色と、これからも成長していきたいという思いを込めて伸びやかな線にした。両腕を動かして画板を傾け、ビー玉を転がした。2匹の蝶々は筆を握って描いた。腕が少ししか動かないので時間がかかったが、筆をしっかり握り、自分で上下左右とゆっくり動かして色を塗ることができた。

自然の中で 飛び交う蝶々

宮古島の海と空に囲まれて 今日も輝く 一つの命

(作品応募時「制作意図」より)

(聞き手) 川上真貴子先生への質問です。今回の奥平菜稚さんの応募に際して、先生自身は、どのような思いで作品制作に関わってきましたか。

(川 上) 作品制作の前に、戦争や平和についての語り聞かせを行いました。実際に制作を始めてからは、菜稚さんのできる力が発揮される方法を探りながらの取り組みになりました。見る力、筆を握る力、左腕を上げる力、脱力できる範囲を意識しての取り組みです。わずかな動きでも菜稚さんにとっては、かなりの集中力と体力を使うことになりました。それでも、できるだけ菜稚さんの力が作品に表れるよう手添え等は極力しないようにしました。

菜稚さんの作品に向かう気持ちが色や線となって画用紙に現れる度に、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

(聞き手) 今回、菜稚さんの作品については、先生自身、どのようなことをテーマに取り組んでいたのでしょうか。また、作品で一番伝えたいメッセージとは何ですか？

(川 上) 菜稚さんは健康が第一のお子さんです。生命の危機に直面したこともあるそうです。その菜稚さんが絵を描くということ、わずかでも自分の動きを活かして線を引くということそのものが「平和、生命の尊さ」のアピールであると考えています。

どの子どもも学ぶ喜びを感じたいはず。それを保障できるのは平和な世の中があつてこそではないでしょうか。菜稚さんのように常時医療を必要とし健康を願うお子さんの描いた絵が、周囲の人に認めてもらえる世の中であつて欲しいと思います。

(聞き手) 今回、作品が佳作に入選しました。先生や菜稚さん、お母様の率直な感想を教えてください。また、その過程やその後の変容について、何かあれば教えてください。

(川 上) 率直に言うと、菜稚さんのがんばりが認められて、それを広く発信できるということが嬉しいと思いました。菜稚さんは訪問学級で学んでいるため、学校に登校することはほとんどありません。なので、菜稚さんに会ったことのない児童生徒や先生方がほとんどです。入選をきっかけに「作品制作の様子を生徒たちに紹介して欲しい」という声上がり、2学期の始業式や児童集会の中で動画等を使って紹介しました。その後は「菜稚さんは今どうしていますか？」と子ども達や先生方から聞かれることも増え、存在感を高められたことも嬉しく思っています。

お母様からも「菜稚ががんばって描いた絵が賞をもらいました！」と周囲に話し喜んでいらっしやいました。新聞に掲載された後は友人や親戚からお祝いのメッセージやプレゼントが届いたそうです。



お母さん 本人 担任 校長先生

(聞き手) 先生自身、「平和」について、どのようなものとイメージしておりますか？ 特別支援教育と平和教育との関連については、どのようにお考えですか？ 学級担任の立場でお聞かせください。

(川 上) 弱い立場の者、特に医療を必要とする者、常に介護を必要とする者の生命だけでなく「教育権」を保障できるのは「平和」があってこそだと考えています。(災害時にどうやって障害の重



平和朝会 その1

い方たちを守るかという議論や対策の検討はされていますが、災害と戦争は根本的に違うものだという前提です)

どの子にも等しく学ぶ権利を保障するという点に関しては、特別支援教育と平和教育の目的で一致するところではないかと思えます。インクルーシブ社会という言葉聞きなれて久しくなりました。障害の有無などにより差別されず、誰もが共に生きていける社会を実現するために特別支援教育も平和教育も大切にしていきたいと考えています。

2. 宮古特別支援学校における実践について

特別支援教育における平和教育の取り組みがどのようになされているかを、喜久山校長にお伺いしました。障害の程度が様々な児童生徒たちが一緒になってできることとは何か。ひとつの事例として紹介いたします。

(聞き手) 校長先生へのご質問です。今回の菜穂さんの作品応募と佳作入選について、率直な感想をお聞かせください。

(校 長) 担任と保護者と連携しながら、本人の体調面に気づかいつつも、佳作入選できた事を本当に喜んでいます。何ができるか、何かやってあげたいと願う担任の姿勢に感謝しています。そのことを受け入れていただいた保護者へも感謝です。

(聞き手) 特別支援教育と平和教育との関連について、どのようにお考えでしょうか？

(校 長) 平和な世の中でなければ、弱者と呼ばれる子ども達が生きていけない世の中になると思います。常に多くの方々に感謝する心を持って欲しいと願っています。

(聞き手) 貴校における平和教育で、とくに重視していることは何でしょうか。また、今後、取り組んでみたいことは何でしょうか。

(校 長) 先生方のアイデアが勝負だと考えています。一人ひとりが少しでも多く参加できる方法をと、常に考えています。感性にうったえるような取り組みができればいいなと思っています。



平和朝会 その2

(聞き手) 沖縄戦の歴史的事実と教訓の継承について学校における平和教育に対する期待が今後高まってくるのが予想されます。特別支援学校としてできる役割、特別支援学校だからできる役割について、どの様なお考えでしょうか。

(校長) それぞれの地域の資源を活用した取り組みができたらいと思います。まず、自分の地域(近い所)の出来事に触れることも大切な事だと思います。一人ひとりの身近にいるみなさんへ「感謝」の心を持つこと、もたせる指導が大切に思います。「きれいに咲こうよ！きれいに咲かそうよ！」の気持ちを持ち続けることと考えます。



平和コンサートのひとコマ

平和宣言

私たちは 笑顔あふれる
平和な生活が続くことを 願います。
そのために わたしたちは
一人ひとりが 友達と 仲良くし、
感謝の 気持ちと
優しい 気持ちで
過ごしていくことを ちかいます。
平成27年 6月19日
宮古特別支援学校一同



～ 「沖縄戦平和学習」今後のシェアリングのために ～

『平和な世の中でなければ、弱者と呼ばれる子ども達が生きていけない。』

今回のシェアリングプロジェクトでは、特別支援教育における平和教育の実践事例として、沖縄県立宮古特別支援学校の取り組みを紹介しました。担任の川上真貴子先生、喜久山校長先生のお話から、特別支援教育における平和教育のあり方について示唆を与えていただきました。戦時中、障害をもった子ども達がどのような状況にあったのかは、当時の資料から知ることができます。戦時において、障害を持った子ども達(大人も含めてですが)がいかに困難な状況におかれる(追い込まれる)のかは、現代の紛争地での状況からも垣間見ることができます。

校長先生からも「平和な世の中でなければ、弱者と呼ばれる子ども達が生きていけない世の中になる」との指摘がありましたが、まさしくその通りだと感じました。

取材協力をしていただいた喜久山強校長先生、川上真貴子先生はじめ職員の皆様。奥平菜稚さんとお母様に心より感謝申し上げます。(沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)